

【笑いとお笑い講座】

何故 これからの経営には笑い（ユーモア）が必要か



NPO 法人健康笑い塾 主宰 中井宏次（薬家きく臓）
（薬剤師・日本笑い学会理事・日本産業ストレス学会理事）

現在のわが国の産業界の大きな課題は、IT化による技術革新と働き方改革（健康経営）である。日本はIT化に何故、遅れたのか。何故、日本にはトヨタやパナソニックのような世界的企業はあるが、グーグルやアップルのようなIT企業がないのか。それは、20世紀の後半から起きた「情報化」という流れに乗り切れず、いつまでも物質主義に拘っていたからである。日本では「情報化」＝「サービス」＝「タダ（無料）」という概念があり、IT化による技術革新が遅れたのである。

しかし、「技術がないのか」というと技術はある。一番よき例としては、携帯電話でよく言われる「ガラパゴス化」である。日本の携帯電話は、高度で多機能であるが特殊化されていて世界市場では売りにくいものになっている。所謂、技術があっても商品にならないと技術革新にはならないのである。そこで、技術（凄い）を商品にするのに何が必要か？ それは、おもしろい（ユーモア）である。

【 凄い（技術） + おもしろい（ユーモア） = 商品 】

このように、「おもしろい（ユーモア）」を上手に活用して仕事や生活に生かしているのがユーモア人財であり、このような多様性のある人財を積極的に活用しようとする考え方こそが、ダイバシティである。これからのイノベーションのキーワードは「凄いからおもしろいへ」であることが、ご理解頂けると思う。

もう一つの大きな問題は働き方改革（健康経営）である。今も昔も「働くのが一番の健康法」、「長時間労働の美德」、まじめに頑張れば家計の安定があり、ものの豊かさ＝幸せ という考え方が根強く残っているのが日本の社会の現状である。「働き方改革」は単なる手段にすぎない。真の目的は「生き方改革」である。これからの人生100年時代、どの様に生きていきたいのか。その答えの一つに「楽しい」がある。

（天才は努力している人に勝てず、努力している人は楽しくしている人に勝てず。）

楽しく生きるために一番役立つのが「笑い（ユーモア）」である。

「笑う」ことによって、メンタルヘルス（ストレス対策）やセクハラ対策、人間関係構築、コミュニケーション等の様々な問題解決ができ、職場の活性化、企業風土改革に繋がるのである。特に、企業文化から企業風土改革が重要である。

今回は、笑い（ユーモア）の様々な効用を理解・実践して頂き、これからの大きな変革期に対応するためには、企業経営者に「笑っている場合か」とお叱りを受ける前に、「笑わないと仕方がないなあ」が如何に重要であるのかを、提案させていただきます。一度ご笑味頂けましたら幸甚でございます。

【講演内容】

1. 職場風土（健康経営）に必要な3大項目

- ・活き活きワクワクする職場づくり

① ② ③

2. 人はなぜ笑わなくてはいけないのか。

- ・お笑いと笑い（ユーモア）の違い
- ・凄いからおもしろいへ
- ・人材+おもしろい=人財

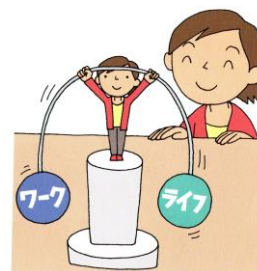


3. 笑いの3つ効用

- ① 健康力：病気の原因、ストレスとは。
- ② 人間関係力：人は何故コミュニケーションをするのか。
こころ（楽しい）とは、これからの国際人とは
- ③ 創造力：右脳の活性化（新しい発想法）

4. どの様に笑えばいいのか（3つの笑いサイクルを実践）

- ① 顔が笑う； ・いい顔とは ・しあわせとは
- ② こころが笑う：五感で四季を感じる、感動する
- ③ 脳が笑う：ユーモアを楽しむ・創る・話す



5. 笑い（ユーモア）は本物である

【参考】

経営課題	笑い（ユーモア）の効用
1. 社員の健康—メンタルヘルス	免疫力をアップ・悩みと迷いは違う
2. 職場の活性化—ワクワクする職場	人間関係力—笑顔（いい顔）をつくる
3. 新しい発想—おもしろいなあ	創造力=凄い+ユーモア（右脳の活性化）
4. 挑戦する社員—好奇心	「おもしろいなあ、いっぺんやってみなはれ！」
5. 定年後も楽しい—生き方改革	「笑う門には福来る」笑うから幸せになる

- ・失敗から学ぶのではないその過程から学ぶのである
⇒行動しないことが失敗である

以上